

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4270400668 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 平成会 | | |
| 事業所名 | グループホーム・栄田 | ユニット名 | 1階 |
| 所在地 | 長崎県諫早市栄田町42-58 | | |
| 自己評価作成日 | 2020年10月19日 | 評価結果市町村受理日 | 2020年12月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F | | |
| 訪問調査日 | 2020年11月10日 | 評価確定日 | 2020年11月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の訪問看護ステーションのサテライトがあり、相談しやすい環境にある。入居者も入居前からの主治医の継続や往診を受けられ、職員と医師が情報共有し、意向に沿って最期まで適切なケアができるよう努めている。
日々の業務はICT活用により情報共有しやすく、効率化につながっている。入居者一人ひとりを尊重して、それぞれのペースで生活できるよう支援している。入居者のできること、得意なことなどの情報は職員間で共有しながら生活に取り入れて支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム栄田”は2階建てで、それぞれの階にユニットがある。道路向かいの保育園の園児との交流もあり、季節行事等を一緒に楽しんでいる。入居者個々の生活ペースを大切にされており、散歩や水やり、洗濯物たたみ、寝る前に新聞を読む等の日課が継続できるように努めている。縫物が得意な方は雑巾縫い等をして下さり、お孫さんにマフラーを編まれる方もおられる。玄関前に向日葵などの季節の花を植え、日向ぼっこを兼ねたお花見を楽しまれ、ベランダで育てているトマトや豆などを収穫されている。毎日の体操も続けており、食事量、水分量などをケアカルテに入力し、健康管理に繋げている。ホーム内の勉強会も継続し、脱水、食中毒、衛生管理、身体拘束、認知症ケア、入れ歯ケア、耳下腺・顎下腺・舌下線マッサージなどの知識を増やし、日々のケアに活かしている。今後も変わらず、入居者個々の「できそうな事」をアセスメントし、日々の役割を増やしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は職員間で確認している。また、人事考課にて改めて理念や運営方針を確認、実践できるよう努めている。 | 「住み慣れた住まいで、その人らしい暮らしを継続できるよう支援します」という理念を大切にされている。「住み慣れた住まい」には、「地域で」という意味も込められ、園児や地域のボランティアの方などと交流されている。入居者のお好きな事をして頂き、日々の役割を担って頂いている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 行事を通じて、地域の方や保育園と交流できるようにしている。地域の方のボランティア(傾聴ボランティア、紙芝居、歌)の受け入れも行った。 | ホーム前の「こころ保育園」との交流があり、ハロウィンには入居者とお菓子を袋詰めし、園児にプレゼントした。コロナ前は高校生(福祉科)もホームに来て下さり、入居者とお菓子作りを楽しまれた。町内の夏祭りに参加し、焼きそばを食べたり、催し物を楽しまれ、諫早のんのご祭りの見物も楽しまれた。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議での報告と共に認知症の方への支援について話をするようにしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議にてホームでの活動内容を報告し、委員の方より意見をいただいている。 | 会議の議題(感染症と対策、身体拘束、災害対策等)を決めて情報交換している。外部評価結果も報告し、「マンリ化より、新しいものを取り入れるのも良いと思う」等のご意見を頂くと共に、ホームの取り組みや役割を理解して頂いている。コロナ禍は開催できず、資料を配布してご意見を頂いている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議にて市の職員の方に報告して協力関係が築けるように努めた。 | 管理者が市役所を訪問し、運営推進会議の内容、入退居の報告や更新手続き等を行っている。コロナ感染対策におけるアドバイスも頂き、市からもメール等で消毒薬やマスクの在庫確認があり、マスク等を配布して下さっている。コロナ前は「さわやか介護相談員」の訪問が行われていた。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に勉強会を行い、理解を深めている。職員間で声をかけあい、身体拘束防止に努めている。 | ご本人の行動背景の分析を続けている。症状や行動に応じて家族、医師、市役所等に相談し、最適な解決策を検討している。身体拘束防止等の委員会と勉強会を継続し、転倒予防でベッドの位置を変更するなどの対応も行われた。今後も委員会の記録を明確に残していく予定である。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束同様、勉強会を行っている。職員間で声をかけあい、虐待の防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護についての勉強会の機会は設けることができていないが、今後権利擁護推進員養成研修を受講の予定で職員間で学習したい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書、契約書の説明を行い、不安や疑問点がないか確認しながら行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置している。日頃から様子を報告する時に意見などないか確認するようにしている。昨年はご家族の方へ満足度のアンケートを初めて実施した。 | コロナ禍は家族のLINEグループに写真を送信したり、ご本人が書かれた手紙に写真を貼って郵送している。電話で暮らしぶりや健康状態を報告し、終末期の面会希望を含めて叶えるように努めている。「居室の掃除」や「色々な活動を行ってほしい」等の要望も頂き、日々の生活に取り入れている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃から職員間での意見交換をしている。会議の場でも自由に意見を言い、話し合いができています。また、会議出席者が必ず意見を言う場も設けている。 | ユニット合同の職員会議で、「職員より」という議題を作り、各自が意見を伝える機会になっている。施設長と管理者との3者面談もあり、目標確認が行われている。職員の助け合いもあり、業務のアイデアも多く、玄関先の花植えや花見等を楽しまれている。コロナ禍の感染対策も密に検討を続けてい | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすい環境づくりに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の経験年数など、必要に応じて研修を検討し、受講できるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 運営推進会議に出席してもらったり、こちらからも出席することで学ぶ機会がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居相談があった時に話を伺い、ケアマネや病院のソーシャルワーカー等から情報をいただき、本人と信頼関係が築けるよう取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居相談時に話を伺い、入居前や入居時も不安なことなどないか確認しながら信頼関係が築けるよう取り組んでいる。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の状態と本人、ご家族の意向を把握し、必要とする支援を検討し、対応ができるようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者との距離を縮めるためにコミュニケーションの時間を長くとっている。時折、入居者から昔の情報など得ることがある。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時にご家族と本氏の空間を作り、過ごしやすく環境を整えている。ご家族とのコミュニケーションを図る際、「元気にされていますか」等の声かけをしている。(以前、このように声かけを行った際、「職員さんからそういう事を言っていたら嬉しいです」と言われることがあった。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 受診後に外食、外出を希望されることがあった。 | センター方式に生活歴を記入している。ご本人が書かれた手紙を郵便局で投函したり、自宅への外出も行われ、家族と美容室やお墓参りに行かれる方もおられる。以前の職場の方がホームに電話をくださり、数十年ぶりにお話をされた方もおられ、手紙のやり取りもされている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 「元気ですか」「今日は天気がいいですね」など入居者同士のコミュニケーションが難しい方に声かけを行った。また、定期的に席替えをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も関わる機会がほとんどない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個々の思いを把握するようにしているが困難な場合は本氏がしたくてもできないことなど本人本位に考え行っている。 | センター方式を活用している。日々の会話の中で要望を伺い、家族には電話や面会時に伺っている。意思疎通が困難な方も表情や声かけの反応等から思いを把握するように努め、家族にも確認している。「家に植物があったから取りに行きたい」などの希望があり、願いを叶えている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本氏やご家族から得た情報(寝る前に新聞を読むなど)を実践している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1人ひとりの身体状態、精神状態にあったこと(洗濯物たたみ、体操等)を実施している。職員間で情報共有し、できることを実践している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現在、面会も禁止になりご家族の参加が難しいが、電話にて内容を報告し、それに伴い職員も話し合いを行い、ケアプラン作成を行った。 | アセスメント用紙の改良が行われ、生活歴を増やし、ご本人のできる事の情報把握に努めてこられた。ご本人と家族の要望を伺うと共に、ご本人の心身状況に応じた声かけの工夫も続けており、計画には散歩や水やり、体操、歌、洗濯物たたみ等も盛り込まれている。 | 今後も家事活動を含め、ご本人の「できる事」「できそうな事」、留意点、趣味等をアセスメント用紙に増やしていくと共に、24時間の日課表にケア内容のみでなく、ご本人ができること、留意点を追加していく予定である。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアカルテに記録した内容を職員間で共有、ケアの内容を見直し、その都度職員間で話し合いを行った。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 生活の中で決まっているものもあるが、一人ひとりの状態や意向に沿った支援ができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事や外出をしたりして、その方が楽しみながら生活ができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前よりのかかりつけ医での受診をしてもらい、相談しながら受診や往診にて対応している。 | 前回の外部評価以降、主治医と情報交換する機会を増やしてこられた。同じ建物内に訪問看護(サテライト)があり、随時相談でき、医師(内科3カ所、歯科2カ所)の往診もあり、必要時はクリニックの看護師が点滴に来られる。通院は主に家族(又は職員)が介助し、認知症専門医の受診も行われてい | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の変化をケアカルテに入力し、変化があれば看護職員や訪問看護師に相談し、適切な対応をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は状態把握も兼ねてソーシャルワーカーと情報交換している。また、受け入れできる状態も伝え、早期退院ができるよう支援している。退院前に居室状況を伝え、同じような環境でリハビリをしてもらうことがあった。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人の状態により、ご家族、主治医と話し合いを行い、訪問看護の協力を得て意向に沿った支援ができるよう取り組んだ。 | 希望があれば看取りケアを行う方針であり、医師からも「何かあったら電話して下さい」と言っている。体調変化に応じて、ご本人の意向を確認し、主治医や家族、看護師と話し合い、家族も泊まり込みで介護された方もおられる。職員も全員で誠心誠意のケアを続けており、ご本人から最期に「ありがとう」と言うお言葉を頂いている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルは整備している。救命救急の研修があった時に出席したり、勉強会で学ぶことはあったが定期的な訓練は十分でない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 防災計画で火災、災害想定訓練を実施している。コロナ以降の訓練では消防団等との訓練の実施ができず、自主訓練を行った。現在もIHクッキングヒーターを使用したり、火災を防ぐよう定期的に掃除をしている。 | 28年に近隣施設(ケアホーム栄田、椿寿荘)と協定を結び、30年4月は防災計画とマニュアルの再確認が行われた。コロナ以前は毎年3月に消防署や消防団と訓練(夜間想定)を行い、入居者に布団で休んで頂く場面からスタートしていた。避難確認後の居室の目印(タッチライト)も設置している。2020年度は防犯訓練で刺殺(サスマ)を使った訓練が行われ、台風時の避難方法も検討し、公民館には行かずホームで安全に過ごされた。 | コロナ禍、消防署員や消防団立ち会いの訓練ができておらず、今後も引き続き、実践に即した訓練方法を検討すると共に、災害への備えが不十分な物があり、必要な備蓄を検討し、準備していく予定である。 |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 敬語を使い、名前呼びかける。話が難しい入居者はその表情やしぐさで非言語コミュニケーションを行い、傾聴している。 | 入居者の方と目線を合わせ、その方に応じた声かけや言葉遣いに配慮している。希望に応じて同性介助を行い、羞恥心の配慮をしている。介護を拒まれる方は声かけに配慮し、行動の背景も理解しながら対応している。入職時に個人情報保護の署名を行い、日々実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 否定せず、本人に決定していただいている。行動を規制せず対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 車椅子の入居者で自走される時は本人のペースを考え、出来る限り本人の希望通り支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 声かけを行い、整容してもらっている。自分ですることが難しい方は介助でその人らしい支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 本人の状態に合わせてテーブル拭きなど手伝ってもらっている。食事は摂取しやすいように刻みやミキサーにして、箸やスプーン等使い分けて食事が楽しめるようにしている。 | 平成30年2月から配食サービスを利用している。ご飯はホームで炊き、味噌汁や和え物などの一部は半調理の状態が届き、職員が仕上げ調理をしている。入居者もテーブル拭きやおやつ作りを楽しまれ、入居者の方とベランダで育てた野菜(トマト、豆)を美味しく食べられている。 | 今後も入居者の方が「できる事」「お手伝いができる場面」をアセスメントし、日々の役割に繋げると共に、配食事業所との情報交換を増やし、更なる味の改善や食材の固さの調整をして頂く予定である。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量をケアカルテに入力、情報共有をしている。栄養バランスは配食先の栄養士が献立を立てており、バランスの取れた食事になっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 本人の能力に応じて行っている。抵抗がある場合は無理に行っていない。必要な場合は訪問歯科で対応してもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間を決めてトイレ誘導したり、入居者の行動等で判断し、トイレ誘導を行っている。 | ご本人の意思を大切にしながら、トイレ誘導をされている。排泄が自立し、布の下着の方もおられ、パッドの必要性や種類を個別に検討し、頻尿の方は医師に報告している。失禁状況に応じた個別ケアを行い、皮膚トラブルが改善したり、リハパンから布の下着に変更できた方もおられる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | おやつの時間にココアやバナナ等を提供している。また、毎日体操に参加してもらっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 時間帯など決まっている部分もあるがその方にあった支援で入浴をしていただいている。 | 浴槽が深く、台を入れて入浴しやすくしている。湯船で職員との会話(昔話)も弾み、柚子湯も楽しまれている。出入りが難しい方は足湯をしながらシャワー浴をしたり、入浴を拒む方は無理じいせず、体格に応じて2人介助も行われている。入浴後のノンアルコールビールを楽しみにされている方もおられる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間良眠できるように日中に体操をしたり昼間に覚醒状態が保てるよう心がけて支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 必ず服薬時は2人で確認し、きちんと服薬されているが確認してからその場を離れるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物たたみやテーブル拭き、おやつ作りなどその方のできることを、楽しみを生活に取り入れて支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 花見などの外出や自宅に帰ったり、散歩したりされていたが新型コロナウイルスの流行により外出ができない状況にある。 | ホーム前の花壇で花見や日光浴をされたり、保育園の季節の飾りつけを楽しまれている。ホーム周辺の散歩や諫早公園の桜の花見、真崎川の鯉のぼり見物をしたり、コロナ前はスーパーでの買物、栄田町内の祭りやのんご祭りを楽しまれ、年末年始に外泊する方もおられた。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 少額のお金を所持されている方はいるがお金を使い機会がほとんどない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人自ら電話をされることはほとんどないが家族から電話がかかり、話ができるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節により温度の調整、すきま風が入ってこないように調整を行い、心地よくすごせるよう配慮している。 | 1階と2階に各ユニットがある。リビング横の和室を改装したフローリングルームがあり、雨の日などは洗濯物を干したり、マッサージチェアで足を挙上して過ごされている。窓際で日向ぼっこをされる方もおられ、外からの自然光や風を取り入れ、加湿器で湿度調整している。感染対策で換気を行い、クレパリンやアルコール消毒も徹底している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者の関係性に配慮し、席を工夫している。また、一人でもすごせるように居場所づくりをしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | なじみの物の持ち込みがない方も多いが、入居時に持ってこられた物を近くにおいて自分の物であるとの安心感が感じられるようにしている。 | 畳とフローリングがあり、机や収納スペースもある。ご主人の遺影に手を合わせる方、床のモップ掛けをされる方、ラジオを聞かれる方、自宅から持ち帰った植物の世話をされる方もおられ、家族や飼っていたペットの写真、人形、枕、時計、好きな歌手のCD、単行本、文房具等を持ち込まれている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 洗面所やトイレの場所で混乱される方がいる為、場所がわかるように表示したり、誘導して支援している。 | | |